富士見市防災環境カルテ

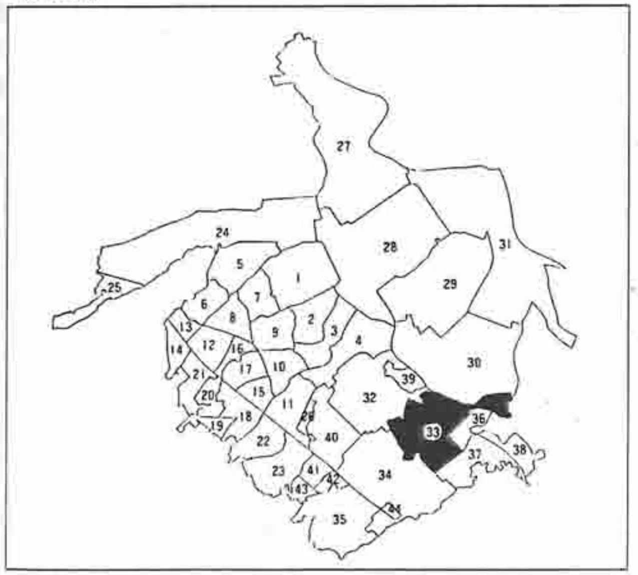
水谷第２町会
(水谷東１丁目地域を除く)

位置番号　３３

・概　況

水谷第２町会(水谷東１丁目地域を除く)は、富士見市の南東部に位置し、北側は急斜面〔段丘崖(急)〕、浸食斜面(低位段丘)を経て新河岸川に面し、東側は北側と同様、急斜面、浸食斜面、低地(谷底平野)を経て、主要地方道浦和・所沢線(国道254号線)に面し、さらに低地、水田地帯(谷底平野、氾濫平野)を経て柳瀬川へと、他の地域は台地(台地段丘)で形成されている。東側の低地には水田の一部を盛土して建設した水谷中学校が、水谷東１丁目地域、水谷東２丁目町会、水谷東３丁目町会の避難所に指定されている。台地の中央に県道大井・朝霞線が通り、その周辺は宅地化が進み住宅が密集しつつある。環境は、武蔵野台地上の住宅地と田園が融和した良好な地域である。水害は、水害履歴から台風に伴う大雨により、東側の水田が灌漑用水路からの溢水のため、また、台地上の県道大井・朝霞線沿いの低い所にある畑が下水路からの溢水のため、それぞれ、冠水する内水災害が予想される。地震災害は、北側の急斜面(大字水子字観音前)から東側の急斜面(大字水子字東石井)にかけて、崖崩れのため崖下の住宅が被害を受ける危険性がやや高く、地震火災の危険性は低いと予想される。主要地方道路浦和・所沢線から東側の水谷東１丁目地域については防災環境が大きく異なるため別途評価することとする。

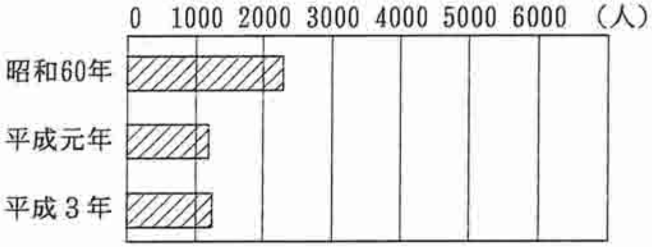
・位置図



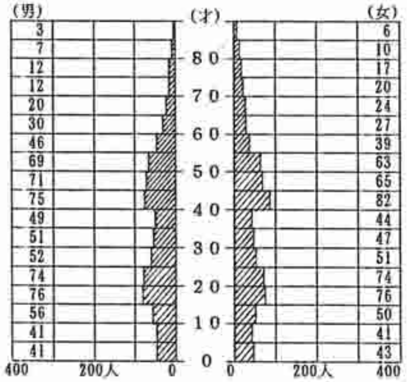
１．基礎指標

・面　積		０．７１９㎢
・人口(平成３年10月１日現在)	男	６６５人
	女	６３７人
	計	１，３０２人
・人口密度		１，３１０．８人/㎢
・寝たきり老人数		５人
・ひとり暮し老人数		９人
・世帯数		３８０世帯

・人口推移

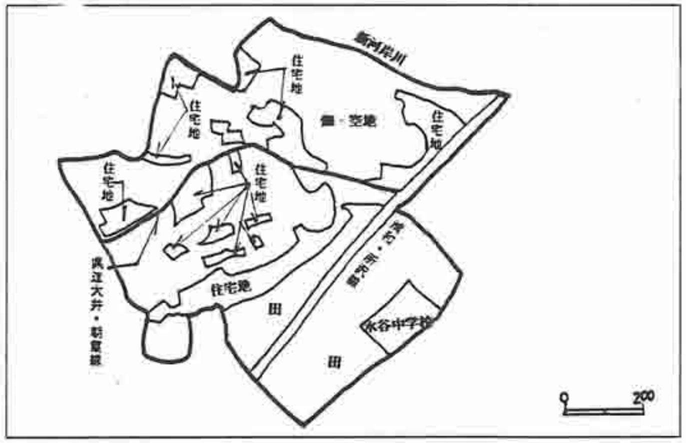


・年令別人口（平成３年）

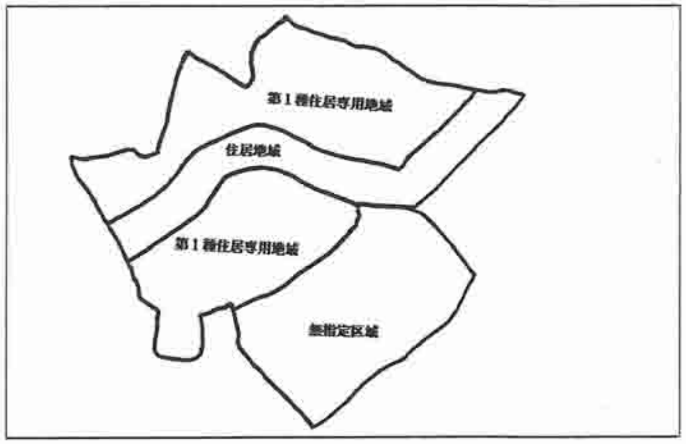


・商住工混在率住居系	９０．２％
店舗系	２．０％
工業系	７．８％

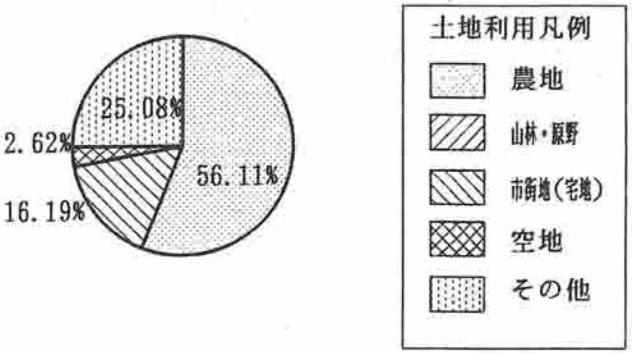
・町会現況図



・用途地域図



・土地利用現況



２．建物指標

・建物棟数	６０７棟
木造建物	５３１棟
非木造建物	７６棟

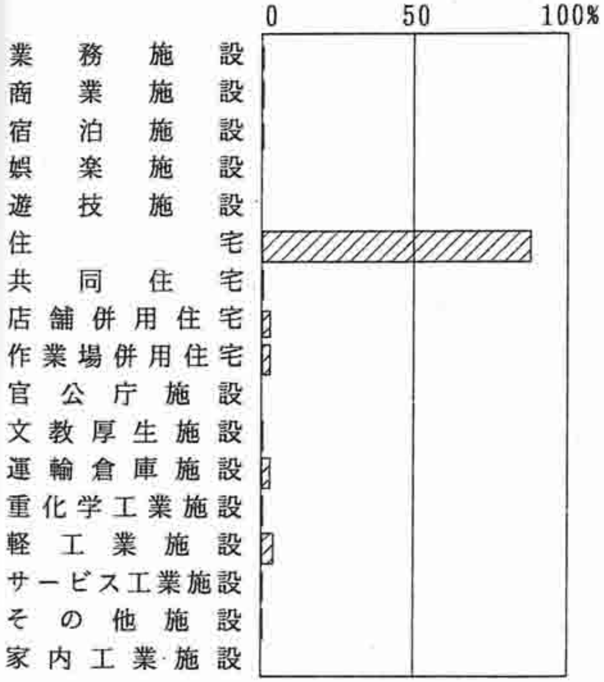
・建物面積	３２,７７０.７２㎡
木造建物	２７,０６０.８４㎡
非木造建物	５,７０９.８８㎡
※建物面積は１階の面積	
・住宅率	８８.１％
・木造率	８７.５％　(　５３１棟)

・昭和34年以前の木造家屋実棟数	１２４棟
・同上率	２３.４％

・建物階層別現況（木造建物）

１階	３５８棟	６７.４％
２階以上	１７３棟	３２.６％

・建物用途別現況



３．道路空地指標

・道路率	３５本	４８.７本／㎢
・幹線道路率	４本	５.６本／㎢

・公共空地面積	１８,６４９.０㎡
・公共空地率	２.６％
・１人あたり公共空地	０.８㎡／人

・公共空地内容（＊指定避難所）

名称		面積
1.	高校	０㎡
2. 水谷	中学校＊	１８,６４９.０㎡
3.	小学校	０㎡
4.	公園	０㎡

４．消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署	
	応援協定	所沢市、川越地区消防組合、新座市、志木市各消防本部

・消火栓本数	２４本
・１消火栓あたり世帯数	２９.２世帯／本

・消防水利貯水施設数	４　(　２) か所
(　) 内は容量40トン以上の施設数	
プール　１	
・消防団機械器具置場	０

５．危険物指標

・給油取扱所	２か所
・一般取扱所	０か所
・屋内・屋外(タンク)貯蔵所	０か所
・地下タンク貯蔵所	１か所

６．既往災害

・家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
昭和５７年　９月(台風18号)	2棟	1棟	か所
年　月(　)	棟	棟	か所
年　月(　)	棟	棟	か所
年　月(　)	棟	棟	か所
年　月(　)	棟	棟	か所
年　月(　)	棟	棟	か所
年　月(　)	棟	棟	か所
年　月(　)	棟	棟	か所

・崖崩れ被害（　年　～　年）	０件
・火災出火件数（　年　～　年）	０件

・1923関東大地震被害

家屋全壊	０戸
家屋半壊	０戸
被害率	０％

７．防災基盤施設

消防	０か所		
病院	０か所		
医院	０か所		
休日診療所	０か所		
警察	０か所	警察署	派出所
水防施設その他の施設	１か所	南畑大排水樋管	

・自主防災組織（数）	０
・自主防災組織参加世帯率	０％
・飲用井戸本数	０本

８．危険度評価

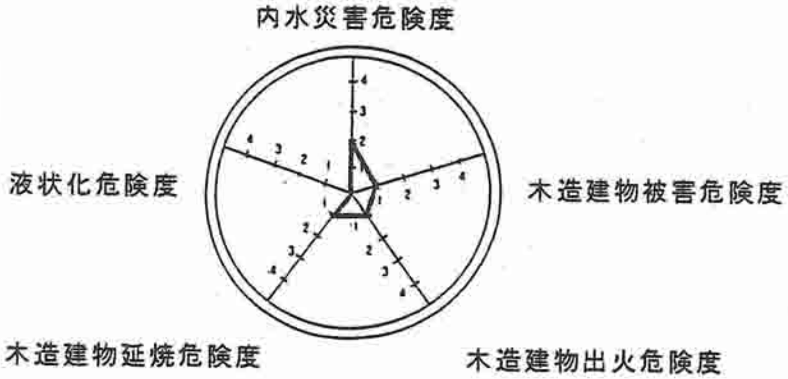
・内水災害危険度	２ランク
・外水災害危険度	０ランク
・土砂災害危険度	３ランク

・木造建物被害危険度	１ランク
・木造建物出火危険度	１ランク
・木造建物延焼危険度	１ランク

地盤・危険度	地盤の地震動危険度	低地	４	台地	１ランク
	液状化危険度	〃	２	〃	０ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4



※ 想定震度　台地５（＋）（強震(強)）
　　　　　　低地６（＋）（烈震(強)）

９．地盤条件

地盤は、台地で硬く、低地で軟らかい。台地で震度５（＋）（強震の強い方）、低地で震度６（＋）（烈震の強い方）の地震が予想される。

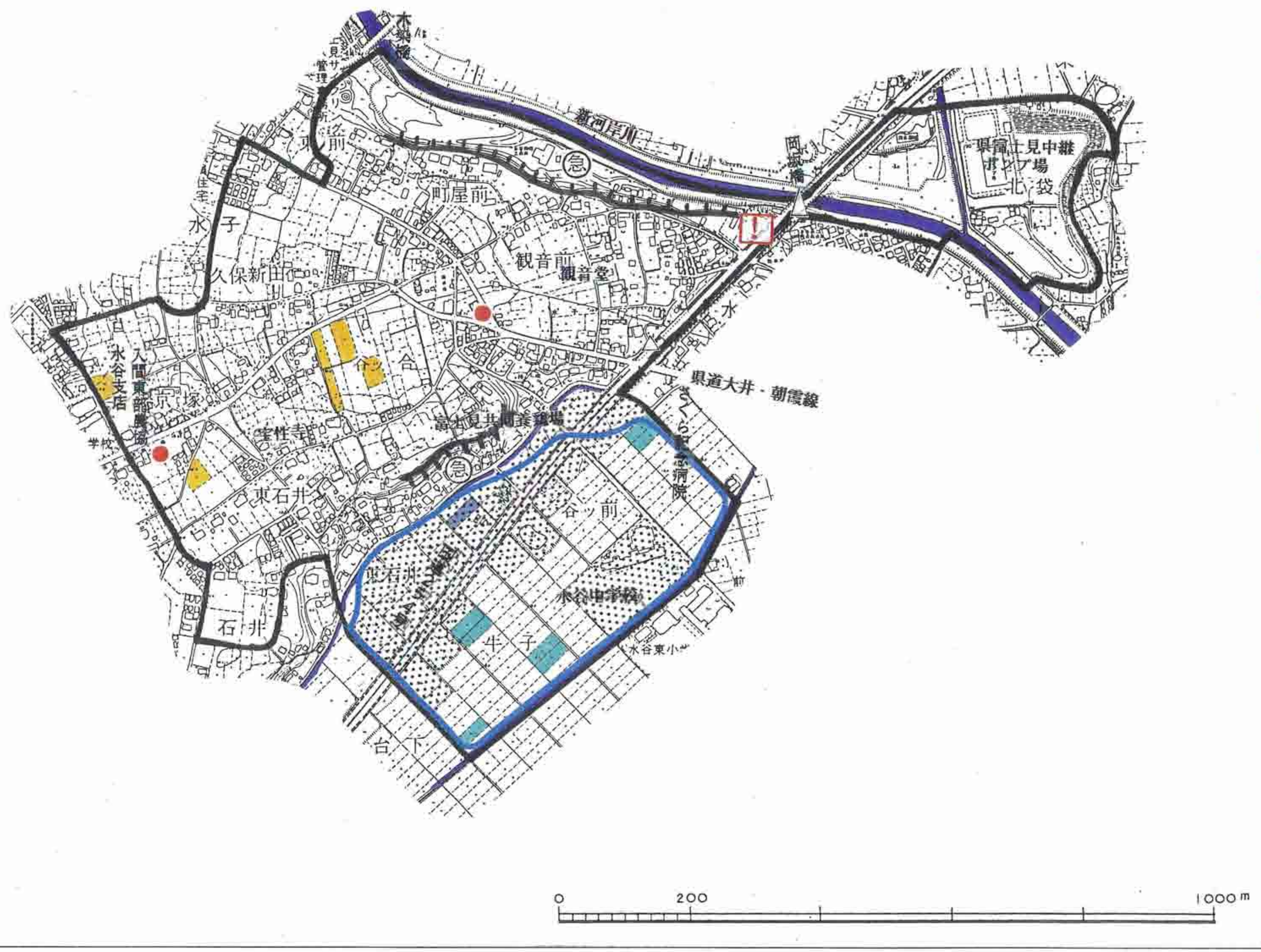
10．問題点の整理

災害発生要因		災害抑止要因	
１．内水災害	県道大井・朝霞線沿いの下水路からの溢水（大字水子字谷ッ合付近の畑の冠水）。低地（水田地帯）の灌漑用水路からの溢水。	１．水防能力	水防施設は南畑大排水樋管がある。
２．外水災害	低い。	２．防災組織	無い。
３．倒壊危険	台地では地盤条件が良いため倒壊の危険性は低い。ただし、低地部の木造建物は、倒壊の恐れがややあるので注意を要する。	３．消防能力	消火栓、消防水利貯水施設は十分と思われる。
４．出火危険	出火の危険性は低いと予想される。	４．防火能力	木造家屋の防火能力は低い。
５．延焼危険	不燃領域率は、台地で70％以上、低地で100％と見込まれるため、延焼の危険性は低いと予想される。	５．避難収容力	町会内の水谷中学校と、水谷第３町会内の水谷小学校、水谷公民館を避難所としている。町会内と水谷第３町会の地震火災の危険性は低いと予想されるので、収容力で十分と思われる。
６．その他の災害	大字水子字町屋から字観音前、東石井への崖で、崖崩れの危険性がやや高いと予想されるため注意を要する。		

11．解決の方向性

幹線道路（県道大井・朝霞線）沿いの下水路からの溢水により、住宅地付近の低い所にある畑が冠水する内水災害が、最近の傾向である。この災害の予防対策として、住宅地内生活排水路、雨水路の大雨による排水能力の調査等を踏まえての改修が望ましい。避難可能な道路としては幹線道路を使用する。したがって、住宅地から幹線道路へ出るまでの生活道路の狭隘化を防ぐ狭隘化予防対策の指導が望まれる。新河岸川沿いには、急傾斜地崩壊危険箇所となっているため、崩れ防止対策と同時に定期的な点検が必要である。

防災現況図Ａ（災害発生要因）



凡　例	
●	給油取扱所
■	一般取扱所
(!)	危険物屋内タンク貯蔵所
◇!	危険物屋外タンク貯蔵所
[!]	危険物地下タンク貯蔵所
▲	ＬＰＧ充填所
△	橋梁
▽	横断歩道橋
△	立体交差
□	木造家屋密集地域
―	河川・水面
急	急傾斜地崩壊危険区域
∴	盛土
□	浅い谷・低地（谷底平野）

既往浸水域（平成３年台風18号）

- 田の浸水地域
- 田の被害区域
- 畑の被害区域
- 床上浸水地域
- 床下浸水地域

防災現況図Ｂ（災害抑止要因）

凡例	
	消防署・出張所
	消防団機械器具置場
	水防施設
	防火水槽・プール
	警察署・派出所・駐在所
	市役所・出張所・公民館
	防災行政用無線子局位置
	コミュニティー・集会施設
	保健所・保健センター
	病院
	医院
	休日診療所
	指定避難所
	公園
	河川・水面
	避難可能な道路
	幅員12m以上の道路
	幅員12m以上の道路（計画中）
	学校（小・中・高）
	空地・水田・畑